

平成24年度帰国者報告会ならびに帰国教員歓迎会

平成24年6月23日(土)に上記の会が、
 アークホテルで開かれました。当日は橋本顧問、
 武参与、赤松参与、山本参与をはじめ約
 50名の会員が出席しました。午前中は、ピ
 ュアリティーまきびで、帰国者報告会があり
 ました。今回は、10人の帰国者の内、参観
 日などで参加できなかった先生方を除いた
 6人の帰国教員から貴重な現地での体験が報告されました。



神田進先生は、シニア派遣でイーストテネシー補習授業校
 に校長として派遣されていました。荷物は全部空輸で運び、
 関西空港からトラックで岡山に持ち帰ったそうです。現在は、
 全海研の中国地方担当者を務められています。



斉藤輝三先生も、シニア派遣でワシントン補習授業校に校
 長として派遣されていました。シニア派遣が始まって3年目
 で、岡山県から2人も派遣され、今後の道を切り開かれた実
 績は、大変すばらしいものです。



今本洋介先生は、大連日本人学校に派遣されていました。
 大連日本人学校は、開校18年目の学校です。現在は赤磐市
 立高陽中学校に勤務されています。現地でも日本に帰国して
 も、夜遅くまで子どもたちのためにがんばっておられました。



岡田正和先生は、ジョホール日本人学校に派遣されていま
 した。1997年開校の日本人学校です。全校児童生徒が1
 00人に満たない学校から、旭東中学校は、940人の大き
 な学校なので大変だけががんばっていますとのことでした。



長木愛先生は、台北日本人学校に派遣されていました。と
 ても素晴らしい多くの人たちと出会い、何て恵まれているん
 だろうと感じていた3年間だったそうです。現在は、高島中
 学校で、英語を教えておられます。台湾は、国交はないけれ
 ど、近くて親しい国だったそうです。

平成24年度帰国教員歓迎会

帰国者報告会は、ピュアリティーまきびで、2会場に分かれて行われました。報告会が午前に2カ所であり、歓迎会はまた別の会場に移るといって全く新しいスタイルを導入しましたが、それぞれが充実して良かったという印象です。なお、子どものための国際理解講座は、帰国教員の学校などで、開かれる予定です。



増田健二郎先生は、香港日本人学校に派遣されておりました。全校児童生徒が、1200人もの大規模校ですが、最近、景気の後退と、英語指向のインターナショナルスクールの選択増で、減少傾向だそうです。現在は、倉敷市立多津美中学校に勤務しておられます。



今井岡山県教育庁教職員課長が、講評をして下さいました。「各赴任先での状況がよく分かり、それぞれに大変な仕事だったと思います。現在岡山県では、世界にはばたけ！グローバル人材育成プランを掲げて、将来を担う人づくりをめざしています。派遣の貴重な経験を生かして、国際理解教育の推進をお願いします。」



橋本岡山市教育次長も、講評されました。「先生方は、現地で教育の現場でも生活の場でも、様々な苦勞をされておりました。その中で、生かせるものを生かして、現地に溶け込んで活躍されていたことは素晴らしいです。岡山市では、小学校と中学校の人事交流を推し進めています。しかるに、先生方は現地で常にその交流の真っ只中におられたわけです。また、地域協働学校という、学校を開き学校運営を活性化するとともに、家庭や地域社会の教育力向上を図るシステムを取り入れています。日本人学校では、すでに保護者が学校運営に深く関わり、まさに学校の中で教師と共に活動しているわけで、日本人学校の教員としての仕事に、大変感銘を受けました。」



さて、場所をアークホテルに移して、帰国者の歓迎会が開かれました。会場の「ラ・ペーシュ」は、南仏をイメージした外からの豊かな緑と光が入る明るい雰囲気のレストランです。報告会には、仕事の都合で来られなかった津嶋邦彦先生が新たに加わり、7名の方とご家族を歓迎する会となりました。



まず、菅野和良副会長が全員の紹介をしました。「色々な国、それぞれの任地から無事帰国され、本当におめでとうございます。帰国されて3カ月が経過し、今何を考えておられますか。日々の仕事に追われていますか。いや家族のありがたさを痛感されているでしょうか。本会のことも忘れず、岡山県の国際理解教育の推進のため、お互いがんばっていきましょう。」



次に、武参与から挨拶がありました。「今年から会長が変わり、今井課長もルーマニアに派遣されていた橋本課長も、行政からバックアップしてくれています。日本人学校にも、大きな夢を持って挑戦する人を後押ししていきたいと思えます。まずは、この会の行事に、しっかり参加することが大切だと思っています。」



続いて、帰国者からの報告です。

神田進先生は、シニア派遣でイーストテネシー補習授業校に校長として派遣されていました。現在は、地域の子どもたちの登校に2kmくらい歩いて同行するのが日課になっているそうです。補習校での仕事は、想像以上に多忙で、特に人材確保や授業案の指導など難しかったそうです。奥様は、アメリカは怖い所と思っていたが、美しく安全でフレンドリーな町だったので良かったということ。そして、近くのグレートスモーキー山脈国立公園に2人でハイキングに出かけ自然を満喫したことが、印象に残っていると話されました。黒熊に8回も出会ったそうです。病気や事故がなく、無事帰国できたことを感謝されていました。





齊藤輝三先生は、シニア派遣でワシントン補習授業校に校長として派遣されていました。「補習授業校というのは、週一日保護者が作っている学校です。ここでは、英語をしゃべるな日本語をしゃべれと言われていたので、英語は上達していません。皆さんの支援にお礼を申し上げます。」また、奥様は「毎朝笑顔で送り出すことと、どんなにしんどい時も弁当を作ることががんばってきました。1番のお礼は、夫に言いたいのです。それから、校長の妻として、いろいろな時に差し入れをして、気持ちを伝えました。例えば、学校運営委員会や運動会のボランティアの人たちに、おにぎりやおはぎや芋の天ぷらなどを差し入れしたわけです。1度すると、次も期待されるので、止めるわけにはいかず、3年間がんばりました。」



津嶋邦彦先生は、サンパウロ日本人学校に教頭として派遣されていました。「治安が悪いため、安全にはいろいろ気を付けました。また、3年目は景気の回復から、児童生徒数が160人から210人に増加し、机や椅子の注文が大変でした。ブラジルでは、日本人は尊敬され、岡山県人会にもよくお世話になりました。」と、お話がありました。



増田健二郎先生は、香港日本人学校香港校に派遣されていました。「香港は、人々が温かくエネルギッシュな街でした。面積は、岡山市と倉敷市を合わせたくらいで、700万人を超える人が住んでいます。日本人は、2万5千人も住んでいます。人口密度が高いため、高層ビルが林立し、空が狭く星が見えません。学校は、2校の小学校と1校の中学校からなり、減少傾向の児童生徒数は、約1200人です。仕事は、いつも帰りが9時~10時と忙しかったのですが、ビールが日本の半額以下なので、おいしくいただきました。帰国して、岡山弁で授業ができるのが嬉しいです。」また、奥様は「手芸を毎日して、免状をいただいたので、これから生かしていきたいです。」と、お話がありました。





今本洋介先生は、大連日本人学校に派遣されていました。3年間のうち、中学3年生の担任を2回したそうです。1クラスだけの3年生の担任で、進学に関する調査書などの仕事は、全て自分の責任で大変だったそうです。



また、奥様は「子どもが夏休みに大連に遊びに行きたいというほど馴染んで、素晴らしい経験になりました。中国語を勉強し、検定に挑戦しています。それを、今後何か役に立てるところで、生かしていきたいです。」と、話されました。



岡田正和先生は、ジョホール日本人学校に派遣されていました。熱帯の国なので、年中水泳があり、マレー系の人に黒いねと言われ、最後はインド系の人に黒いねと言われたそうです。マレーシアは、人が優しく住みやすい良い国だったそうです。



次に、奥様は「日本にいる頃は、主人は部活動などで、ほとんど家にはいなくて、母子家庭のようでした。でも、マレーシアでは、休みの日に一緒に買い物に出かけたり食事に行ったりし、子どもが父親を大好きになってくれました。また、子どもはインドネシアからの煙害で喘息になり辛い時もあったけれど、亀と一緒に泳いだことなど、楽しい思い出がたくさんできました。」と、話されました。



長木愛先生は、台北日本人学校に派遣されていました。「3年前に、この場所で2人になって帰ってきますと、話したことを今思い出しました。約束は守れなかったけれど、たくさんの素晴らしい人たちに巡り会いました。特に、2月に人生初めての骨折をして歩けなかった時、周りの人がみんな、立った瞬間に『何か手伝うよ』と助けてくれました。みんなが助けてくれた感謝の気持ちを、これからの教育に生かしていきたいです。」と、話されました。



閉会のあいさつは、片山副会長が行いました。「現場で、多忙の中に埋没せず、県内で同じように派遣され本会のメンバーとして活躍している仲間との絆を大事にし、宝物のような貴重な経験を生かして国際理解教育を推進していきましょう。」と、話されました。